

学力調査等の状況	
全国学力・学習状況調査から ①国語科では全体が全国平均を6ポイント下回っている。各領域においては、話すこと聞くことで全国平均を上回っており、それ以外では下回っている。②算数科でも全体が全国平均を2ポイント下回っている。各領域においては、4領域とも全国平均を下回っているが、知識技能の下がり幅は少なくなっている。	

見えてきた課題	
①国語科では、言葉の特徴や使い方に関する事項に課題が見られるため、日常生活から話し言葉と書き言葉を明確に使い分けたり、主語と述語の関係を意識させた文の作成を多く取り入れていく。さらには、書くことを通して、自分の考えを表現し、友達との対話でよりよい表現にしていく活動を取り入れていく。②算数科では、図や数、式、表といった数学的な表現の方法を用いて筋道立てた説明を行う場面を多く取り入れていく。基本的な計算の習熟のみならず、基準量を意識し、単位の考えを用いた解法を見出せるようにしていく。	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	GoogleアプリやCanvaを使い、思考の整理や発表等に生かす。
見通しをもたせる導入	児童が新たな単元に取り組んでいく際に、単元のゴールを明確にすることや前時の児童の願いから活動(めあて)をもたせる。
価値ある対話の共有	ホワイトボードミーティングやフィッシュボウルなど、学習形態を活用し、児童が互いの考えを確かめ合う時間を十分に確保する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けさせるために、モジュールの時間を使い、漢字学習を行い言語の知識を豊かにする。 ○スピーチや音読を通して、話す・聞く力を身に付けさせる。 ○単元のゴールを見据えた授業構成により、表現力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の字形と具体物・絵などと結びつけるなどの指導の工夫を行い、象形文字や指示文字の習得を図る。 ○時間の経過やものづくりの手順を考えながら、1つの段落などの部分的な読みにとどまらず、文章全体に何が書かれているかを把握できるようにする。 ○身近なことや経験したことを思い出し、必要に応じて絞って話したり、聞いたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音節との関係や書き表す語の種類など、文字としての性質や役割の異なる漢字や仮名を交えて書かせ、表記の仕方や利点を理解させる。 ○段落相互の関係に着目しながら、書き手の考えとそれを支える理由や事例の関係を捉えるようにする。 ○目的を意識して情報を集め、共通点や相違点に着目しながら比べたり、分けたりして伝え合うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同音異義語に注意するなど、漢字の持つ意味を考え、進んで文章の中で使う習慣が身に付くようにする。 ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて、要旨を把握できるようにする。 ○自分の立場や結論が明確になるよう、事実と感想、意見とを区別するなど、話を構成を考えるようにする。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞やインターネットを活用して、身の回りの出来事に関心をもたせ、社会的現象や、東京都や町田市の様子などを、身近に捉えられるようにする。 ○資料やグラフを効果的に活用した新聞づくりやレポートづくりを通して、調べたことを表現する力を育成する。 	(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにはみんなが使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどに気付けるようにし、それらのよさを感じたり働きを捉えたりする活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な地域や都の特色や様子の変化などを考え、自分たちにできることを選択・判断させるとともに文章で記述したり、説明したり話し合ったりできるようにする。 ○市や都の位置・地形、産業の特色や交通網に着目させ、文章で記述したり、白地図などにまとめたことを基に説明したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の立場や意見を踏まえて、我が国の特色や産業・政治の役割を考え、自分たちにできることを選択・判断させるとともに、文章で記述したり、説明したり話し合ったりできるようにする。 ○産業や政治の働きについて、見学やインタビューをしたり、地図帳や広報誌などで調べたりして、文章で記述したり、根拠や理由を明確にして議論できるようにする。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な概念や性質を理解させるために、Qubenaやデジタル教科書を活用していく。また、習熟度別少人数指導のグループをレディネステストにより適切に行う。 ○筋道を立てて考察する力、統合的・発展的に考察する力、物事を簡潔・明瞭・的確に表現する力を育成するために、解決の課程や結果を振り返ることができるような学習を展開していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元計画ごとに思考力等を身に付けさせる時間を明確化し、具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察できるようにする。 ○デジタル教科書を活用したり、学習内の振り返りの時間等にQubenaや算数プリントなどを活用したりしながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元計画ごとに思考力等を身に付けさせる時間を明確化し、図や式などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察できるようにする。 ○デジタル教科書を活用したり、学習内の振り返りの時間等にQubenaや算数プリントなどを活用したりしながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元計画ごとに思考力等を身に付けさせる時間を明確化し、数とその表現、数量の関係に着目し、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方を考察できるようにする。 ○計算技能を高めるために、指導計画に適用問題を多く行う時間を設定したり、算数プリント、Qubenaなどの反復学習をしたりしながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもって実験・観察を行い、その結果から考察する活動を確実にを行い、科学的なものの考え方を身に付けさせる。 ○日常生活の中から学習内容を想起したり、教師が日常でみられる現象を児童に示したりして考えさせることで、自然現象への多面的理解力を育成する。 	(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) <ul style="list-style-type: none"> ○自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付けるようにし、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとする活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○比較や関連付けをしながら調べる活動を通して、根拠のある予想や仮説を発想し、表現させることを意識して学習を行う。 ○実験を行うことを目的とせず、目的の達成のために実験を行うということを徹底する。自然現象に直接触れさせてそこから学習問題が生まれるように授業を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○条件制御や多面的に調べる活動を通して、解決の方法を発想し、より妥当な考えをつくりだし、表現することを徹底させ、論理立てた思考の方法を身に付けていく。 ○理科における科学用語の共有化と、根拠をもって考えを示す話し方を身に付け、話し合い活動をスムーズに行えるようする。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見つけ、解決しようとする態度を育成するために、ゲストティーチャーや校外学習など、地域を生かした学習を取り入れたりする。 ○「つくる」「育てる」などの具体的な体験活動から児童自身が、主体的・協働的に学習できるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○植物の栽培活動を行い、自分たちの生活を工夫し、楽しむことができるようにする。 ○公共物や公共施設を利用する機会を多く設定し、それらを大切に利用することができるようにする。 ○体験活動を充実させるとともに、活動を通して得た気づきを基に考える時間を設け、学習活動が体験のみで終わらないようにする。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちとかかわりながら、体を使ってリズムを楽しんだり、音を楽しんだりする活動を通して、進んで音楽にかかわる態度を育て、音楽活動への意欲を高める。 ○音楽づくりの活動や、表現を工夫する活動を通して思いや意図をもって表現できる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取りたりして、思いをもって歌う。 ○楽曲の気分を感じ取り思いをもって演奏する。 ○音遊びやリズム遊びを楽しんだり、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくったりする。 ○音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらのよさや面白さなどを感じ取って聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。 ○曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する。 ○即興的に音楽をつくったり、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくったりする。 ○曲想とその変化を感じ取りたり、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取りたりして、楽曲の構造に気を付けて聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。 ○曲想を生かした表現を工夫し、意図をもって演奏する。 ○即興的に音楽をつくったり、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくったりする。 ○音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けながら曲想とその変化を聴きとる。
図画工作科	<ul style="list-style-type: none"> ○形や色、材料などを生かしながら、進んで表現したり、鑑賞したりする態度を育て、見たことや感じたことを表現し、つくる喜びを味わうことで豊かな上層を培う。 ○自ら考え、試行錯誤する場面や、友達と思いを共有したり、協力する場面を多く設定することで主体的、対話的に学ぶ態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみながら、進んで表現したり鑑賞したりする態度を身に付ける。 ○造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせる。 ○身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみながら、進んで表現したり鑑賞したりする態度を身に付ける。 ○材料などから豊かな発想し、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫する。 ○身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみながら、創造的に表現したり鑑賞したりする態度を身に付ける。 ○材料などの特徴を捉え、想像力を働かせて発想をし、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫する。 ○親しみのある作品などから、よさや美しさを感じる力を大切にしようとする。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○実践的・体験的な活動を多く取り入れて、基礎的な知識や技能を身につけさせる。 ○学習したことを家庭で実践する機会を設けることで技能を定着させ、実践的な態度を育てる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できる力を付ける。 ○学んだことを基にし、衣食住などに関する体験的な活動を通して技能を身に付けるとともに、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な力を付ける。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力向上につながるようにする。 ○オリンピック・パラリンピックレガシーを継承し、児童の発達段階に応じたルールやマナーを遵守することの大切さやスポーツの意義や価値などに触れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○20～40mの距離を蛇行せずに、真っすぐ走る。 ○手タッチやバトンを利用したリレーをする。 ○大きさの異なるボールを投げたり、ボールを蹴ったりする。攻守交代型と攻守分離型の簡単なボールゲームをする。 ○体を動かす楽しさや心地良さを味わいながら、基本的な動きを身に付ける。 ○それぞれの運動の動き方を知り、楽しく運動ができる場や活動の仕方を工夫したり、選んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○40～70mの距離を前後に腕を大きく振って、前を見て軽く前傾させて走る。 ○テークオーバーゾーン内で走りながらバトンパスをし、コーナーの内側に軽く体を傾けて走ってリレーをする。 ○基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをする。 ○体を動かす楽しさや心地良さを味わいながら、体の基本的な動きを身に付けたり、それらを組み合わせたりする。 ○自己の能力に適した課題をもち、動きを身に付けるための活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○50～80mの距離をスタンディングスタートで上体をリラックスさせて走る。 ○リレーではテークオーバーゾーン内で減速の少ないバトンパスをする。 ○簡易化されたゲームで、基本的なボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をする。 ○マット運動では基本的な回転技や倒立技を、跳び箱運動では支持跳び越し技を安定して行う。鉄棒運動では基本的な上がり技や支持回転技、下り技を安定して行う。 ○自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫する。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○子供の意欲を引き出すために、多様な題材を扱う。 ○子供たちが触れる英語の質と量を確保し、確かなコミュニケーション力を育てる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとし、外国語での基本的な表現ができる。 ○日付について授業で毎回取り扱ったり、誕生日の人を尋ねたりして、継続的に月の名前の勉強を続ける。 ○単元の中で、アルファベットを書く時間を設定する。また、単語練習をするときにもアルファベットを読む活動を取り入れる。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見付け、解決しようとする態度を育成するために、ゲストティーチャーや校外学習など、地域を活かした学習を取り入れる。 ○70時間を1単元とし、児童自身が、主体的・協働的に学習できるように工夫する。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間でどんな学びをするのか活動の見通しを立てさせるために、見通しマップを作り、記録していくファイルを作る。 ○友達から自分の良さを伝えてもらったり、自分を支えてくれる人への感謝の気持ちをもったりしながら、自分について知る活動を通して自分の良さに改めて気付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べる目的を常に確認しながら学習を進め、目的をもって学習を進められるようにする。 ○調べてまとめる際に、国語で学習した「情報と情報のつなげ方」を活用し、必要な情報を整理してからまとめ作業に入らせる。発信方法も考えさせながら、発信したいという想いを大切にさせる。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の題材を中心にしながら、児童一人一人が本音を語りながら価値観を高め、今までの自己をふり返り、見つめ直せるような授業展開を工夫する。 ○児童の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的实践意欲と態度の向上を促す場を積極的に用意し、道徳的实践力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の生活を振り返ったり、自分について考えたりすることができる。 ○板書により、児童の考えを促せるよう、見える化の類型やツール等について工夫し、思考の共有化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の生活を振り返り、よりよい自分の姿を考えることができる。 ○対話や話し合いの場面を設定し、その中で考えの変化が分かるよう板書に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができる。 ○児童の学びの姿の見取り方を整理し、「自己を見つめる」姿の実現を図り、更に評価にも生かしていく。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動や集会活動を充実させることにより、望ましい人間関係を形成し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級の諸問題を取り上げ、グループや学級全体で話し合い、協力して学級活動に取り組みさせる。 ○当番、係活動及び学校行事に積極的に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動の年間指導計画を学級活動を分類して、計画し直し、児童の主体的な態度の育成を図る。 ○自分と異なる意見を受け入れながら、課題解決のために話し合い、合意形成を図り、実践させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治的なクラブ活動が行えるように、児童の意見を反映させられるように計画する。 ○主体的な委員会活動ができるように、活動の具体例などを示し、児童の思いや願いを実現できるようにする。
外国語活動・英語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○学年の発達段階に応じて、主に英語に関する4つの技能(話す、聞く、読む、書く)についての初歩的なスキルを身に付けさせる。また、ALT等人材活用により、外国の文化に対する理解を深め、国際交流の大切さを学習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームやアクティビティなど活動を多く取り入れて、主体的に関わることができる授業展開にする。担任が説明を補足する場合にも簡単な英語を使い、分からないことは児童に質問させる。 ○掲示物等で、答え方の例示を作り、困り感を減らすことで外国語活動を楽しんで行えるような工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームやアクティビティなど活動を多く取り入れて、主体的に関わることができる授業展開にする。担任が説明を補足する場合にも簡単な英語を使い、分からないことは児童に質問させる。 ○掲示物等で、答え方の例示を作り、困り感を減らすことで外国語活動を楽しんで行えるような工夫をする。 	/